

物語を描く大人の演劇ワークショップ課題作

『はしるの』

長井健一

あらすじ

オリンピックから逃れるために海外に行こうとするわかめという女性と、オリンピックに向けてマラソンをするケンタロウという男性がインターネットをきっかけに出会い、そして共に走る物語。

登場人物

わかめ コンプレックスを抱えた女性

女 わかめのインターネット上での写真の女性・この街に最近引っ越してきた女性
ケンタロウ 走っている男性

この物語の決まりごと

① この物語は、人物同士が会話するシーンによって成立します。そして、その場所は公園とインターネット上とを行き来します。この物語を劇として立体化する場合、いま目の前に現れているシーンが、公園であるかインターネット上であるかの境界は曖昧であつたほうが良いです。

② この物語は三人の人によって演じられます。女、という人物はわかめのアイコンと、女という登場人物を演じます。表記として「女（わかめ）」はわかめがインターネット上で発している言葉を喋り、「女」は、女という人物の言葉を発話します。

ACT1

広い公園のような場所。お昼。うらかな陽気の中、風はぬるい。どこからか子供の笑い声が聞こえる。女、ビニールシートの上に座ってひとり。傍らには弁当箱や、文庫小説、携帯電話などがキャリーケースからはみ出ている。ぼんやり空を眺めていたら、シャボン玉が飛んできた。シャボン玉を携帯電話で撮影したり、読みかけの本を開いたり閉じたりする。少し離れたところに、わかめ。ベンチに座った。わかめ、携帯電話で女の写真を撮る。すると女は、わかめになってしまう。

わかめ・女「何もかも、平和みたいな昼だった。」

「通り過ぎる人々は、みんな無意味に楽しそう」

「みんな春の服を着て。犬も服を着て歩いている」

「浮かれて跳ねている子供たち」

「腕を組むその親らしき男女」

「むやみに咲いたつつじの花、それを撮る老人」

「何の意味もない、シャボン玉すら」

「みんな楽しそうで。とても」

「いいなあ」

ケンタロウが公園のトラックを周回している。イヤフォンをして、二人の周りをぐるぐる走って回る。女（わかめ）お弁当箱を開けておにぎりの写真を撮った。携帯電話がメッセージを受信して震える。

以下の会話は、インターネット上で行われている。

女（わかめ） 本当は家にいなくちゃいけないんだけど、こうして昼下がりの公園でのんびり過ごすのが好き。こうなったのは本当は最近のことです、もともと私は外出とか全くしません。週末はいつも家で過ごすし、こんな風におにぎりを握って外出することも、実は初めて。（おにぎりをかじる）

ケンタロウ おにぎり、おいしそうですね。

女（わかめ） え。

ケンタロウ あ。……すみません。

女（わかめ） いえ……。

ケンタロウ いきなり、びっくりしましたよね。

女（わかめ） ……。

ケンタロウ その、俺、ほんとに、そういう変な奴じゃなくなつて。すみませんこんな他人がいきなりびっくりドッキリ話しかけて。

女（わかめ） あ。いえ、こちらこそ。褒めてもらってるのに、すみません。

ケンタロウ おにぎり、おいしそうですね！ピクニックですか。

女（わかめ） はい。ずっと家にいるのに疲れてしまつて。たまには外の空気吸わなきゃと思つて。

ケンタロウ そうですよ。こんな時期ですけど……ホント、外の空気吸うの大事です。あ、僕ケンタロウです。

女（わかめ） ケンタロウさん。

ケンタロウ そちらは。

女（わかめ） …わかめです。

ケンタロウ わかめさん！変わった名前ですね。

女（わかめ） さすがに本名じゃないです。学生時代からのあだ名で。

ケンタロウ あ、そうなんですね。なんでわかめ？

女（わかめ） 高校生のときのクラスメイトで、私の本名とおんなじ名前の子がいて。なんというか、その子の方が初めから名前で呼ばれてて。

ケンタロウ うん。

女（わかめ） で、私の母校の制服、スカートが緑色なんです。……私スカートの丈が他の子より異常に長くて、それがわかめ履いてるみたいだつて誰かが言い始めて、それで。

ケンタロウ …いじめられてた？

女（わかめ） 全然！そういう感じじゃないです。確かに、今の話し方だとそういう風に思うかも……私はこのあだ名、気に入ってます。

ケンタロウ ならよかった。かわいいですね。わかめって名前。……というか、やつぱり僕警戒されてます？

女（わかめ） ……まあ、はい。あ、でもわかめの由来は結構聞かれます。

ケンタロウ ですよ。じゃ、仲良くなれたら教えてくださいよ。名前。

女（わかめ） 仲良く……。まあ、はい。

遠くで子供たちの歓声上がる。少しの間、黙るふたり。

ケンタロウ わかめさんはどのあたりにお住まいですか。

女（わかめ） えっ。

ケンタロウ あ……。僕本当におかしいですよ。っていうかホントヤバイですね。

女（わかめ） いやいや、いや、なんで聞いたのかなみたいな。……ちよつと、そんな落ち込まないでくださいよ。

ケンタロウ ナンパしてるみたいじゃないですか……。

女（わかめ） え、ナンパじゃないんですか、こういうの。

ケンタロウ 否定できません。

女（わかめ） あはは。なんか、ケンタロウさんって面白いですよ。

ケンタロウ えっ。面白い？僕が？

女（わかめ） はい。いきなりおにぎりおいしそうとか、普通言わないです。

ケンタロウ そうかなあ（うれしい）。

女（わかめ） ふっふにちは、とかじゃないですか？

ケンタロウ すみません、そういうここでのルールとか僕知らなくて。

女（わかめ） 別にルールとかないですけどね！人それぞれ、だと思います。

ケンタロウ ちよっと打ち解けられてうれしいです。

女（わかめ） 私、東京に住んでいます。

ケンタロウ あっ、東京……広いですね。

女（わかめ） ケンタロウさんは？

ケンタロウ 僕も東京です。

女（わかめ） そうなんですね。

間。

夕方の時報「夕焼けこやけ」が流れてくる。

ケンタロウ ……また、話しましょう！

女（わかめ） はい。私どうせ、暇なんです。ぜひ。

ケンタロウ 僕も暇で。走ってばかりですよ。

女（わかめ） ランニング、してらっしゃるんですね。

ケンタロウ はい。僕、走るの好きで。

女（わかめ） へえ。

ケンタロウ わかめさんは走るの好きですか？

女（わかめ） 私は、運動苦手で…。

ケンタロウ 気が向いたら、一緒に走りましょう。

女（わかめ） またナンパだ。

ケンタロウ 違いますって！

女（わかめ） ゆっくり去ってゆく。わかめも同じように去る。

ACT2

ケンタロウ、トラックを走っている。スピードがどんどん上がって、ぜえぜえし始める。それでも、トラックを走る。ひーひー言う。

このシーンのケンタロウと女(わかめ)のやりとりは、インターネット上の出来事。

ケンタロウ 一目惚れでした、ぶっちゃけ。だってめちゃくちゃかわいいじゃないですか、……俺恋愛体質で。こういうことって、あるんだなあって……運命、感じちゃったりしました。あ、俺こういうこと全然慣れてないですよ！ほんとに！全然。

女(わかめ) 鮭、おかか。昆布。

ケンタロウ かわいくないですか。

女(わかめ) 梅。明太子。

ケンタロウ あれから毎日、やりとりをするようになったんです。わかめさんは、その日に食べたおにぎりの具を教えてくださいます。

女(わかめ) 梅。おかか。

ケンタロウ おいしそうですね。

女(わかめ) 今日は炊き込みご飯。

ケンタロウ わー。いいなあ。

女(わかめ) 毎日お米ばかり食べてます。から揚げ。

ケンタロウ から揚げ？

女(わかめ) から揚げ入れたらおいしくなあって。あとマヨネーズ。

ケンタロウ 男子高校生みたい……でも、たくさん食べる女性って良くないですか。めちゃくちゃよくないですか。どうですか。いっぱい食べる君が好き。……好き？好き？いやっ！好き！？嫌く！！

ケンタロウ、もじもじしながら走って去ってしまう。

別の空間。わかめやってきて、女の隣に座る。

わかめ どうなの。なにこれ、なんなのこのやり取り。

女(わかめ) 高菜。ツナマヨ！ なんだらうね。でも悪い気しないね。

わかめ ……そう。

女(わかめ) ケンタロウさん。変なお兄さんだけど、ヤラシー感じじゃないし。

わかめ そうね。

ケンタロウ 好きく！？（舞台上を横切る）

女(わかめ) いいんじゃない。

わかめ いい……いいって何が？

女（わかめ） 焼き！

ケンタロウ 焼き？

女（わかめ） 焼きおにぎり！

ケンタロウ、やってくる。

ケンタロウ なるほど。僕焼きおにぎり好きです。

わかめ これ大好き。

女（わかめ） やっぱりオコゲよね。

わかめ でもやっぱり梅が一番かな。

ケンタロウ お、渋いですね。

わかめ えっ。

ケンタロウ えっ。

女 梅、健康だし！

ケンタロウ ですねえ。……そういえば、わかめさん。

女（わかめ） はい。

ケンタロウ わかめさんは、お仕事何されてるんですか。

女（わかめ） あー。……ナイショです。

ケンタロウ えーっ！！もう、秘密主義なんだからっ！

女（わかめ） ケンタロウさんは何されてるんですか。

ケンタロウ ……俺も、ナイショ。

女（わかめ） ズルくないですか。人に聞いといて！

ケンタロウ 確かにそういわれたらそう…ですね。

女（わかめ） 教えてくださいよ。私、本屋です。

ケンタロウ あっ、ズルい！先に言って！

女（わかめ） 別にばらしてもいいなと思って。で、ケンタロウさんは。

ケンタロウ まあ、これが仕事みたいなもんです（走る）。

女（わかめ） これ？

ケンタロウ はい。

女（わかめ） ……全然わかんない。

ケンタロウ 長距離ランナーです。オリンピックの強化選手。

女・わかめ えっ、嘘！

ケンタロウ ナイショにしてくださいね。

女（わかめ） ……大丈夫なんですか。こんな……。

ケンタロウ まあ、オリンピックも、こんな調子であすし。いいんじゃないですか。

女（わかめ） まあ、そっか。大変でしたね、こんな風になってしまっ

ケンタロウ 本当ですよ！まあ、それでも俺はオリンピックを目指して走ることしかできませんけどね！

女（わかめ） すごいなあ。本当にすごいです。

ケンタロウ 俺、足が速いってことしかアイデンティティがなくて。

女（わかめ） アイデンティティ。

ケンタロウ 走るの好きなんです。

女（わかめ） ……私、そんなもの持っていないな。ケンタロウさんはすごいです。走るのが好きで、ずっとそれ続けて、オリンピックの強化選手……だって、国の代表ですよ。積み上げて積み上げて、やっとだったのに……オリンピック。中止、か延期ですもんね。

ケンタロウ ……。

女（わかめ） 私、オリンピックなんてなくなっちゃえばいいと思ってたんです。

ケンタロウ え。

女（わかめ） 逃げたくって。あ、別に私はオリンピックの何でもないですよ。何でもなさ過ぎて、なんでしょうね。自分の国で、オリンピックが開催されるって決まった時私、テレビの前でみてたんですよ。トーキョー。みんな肩を抱いて喜んで、オモテナシ……みたいな。懐かしいなあ。

ケンタロウ はい。

女（わかめ） ふーん、って感じだったんです。ふーん、ってずっと思ってたなら、いつの間にか今年になってしまっただけ。おっきい建物がたくさん建って、街では五輪マークをたくさん見かけるようになって、ニュース番組がオリンピックのことを取り上げて……なんかヤバい！って思ったんです。でっかい世界のお祭りが押し寄せてくるって思うと、逃げたくて。ケンタロウ なんて逃げたいになるんですか。

女（わかめ） わかんない！けど、嫌だったんです。街中、国中がお祭りムードになるの。ガンバレ、ガンバレ、みたいなムードが。別に私を応援している訳でも何でもないのだけど……だから、私海外に行っちゃおうと思って！どこでもいいんです。実際どこに行くかなんて、ちゃんと決めてませんでした。みんながここに来るのなら、私は空いてるところに行つて漫喫しちゃうかと思うてました。でも、コレでしょ？ほーんと、踏んだり蹴ったりとか、願ったりかなったりというか……オリンピックはやってこなかったし……。

ケンタロウ そうだったんですね。

女（わかめ） 私、ケンタロウさんに謝りたいこといっぱいあるなあ……。

ケンタロウ いや、全然。謝ることじゃないです。気にしないでくださいよ。

女（わかめ） ごめんなさい。オリンピック。オリンピック、ごめんなさい。

ケンタロウ オリンピックに謝ってるんですか。

女（わかめ） 嫌いになりますよね。こんなこと話して。

ケンタロウ ……いやいやいやいや！そんなことは全く！わかめさんのオリンピックの話は、その、ほんとに人それぞれだし！俺もそういう、ちよつとした反骨精神？みたいなのあるし。

全然全く気にしないでくださいよ！

女（わかめ） 私は、ちゃんとケンタロウさんにガンバレって言いたい。

ケンタロウ ありがとうございます。

女（わかめ） 会いませんか。

ケンタロウ えっ。

女・わかめ 会いましょう。

わかめと女、ケンタロウとしばらく見詰め合ってから、三人、舞台上からいなくなる。

ACT3

現実の世界。

女、身支度をしながらやってくる。玄関の扉の前に立ち止まり、最終確認。小さいキャリアケースを引いている。

女　なんだか最近変。とっても変。世界がこんな風になってしまったから、当然なのかもしれない。……なんだろうね。街中どこもかしこも、通せんぼみたいになっちゃってさ。どこにも行けないね。……でもどこかに行きたくて、我慢がでなくて、何度もこうして玄関に立っているのです。ポケモンのキーホルダーがついた鍵！ガチャ。

扉を開いた。女、きよろきよろ。家の外を確認、シャボン玉の道具を持ったか確認して、最後にマスクをしてから外に出た。鍵をかけて、公園に出発、キャリアケースを引いて舞台上からいなくなる。

昼下がりの公園。わかめ、やってきて公園のベンチに座る。わかめ、マスクをつけたり外したりする。深呼吸。

わかめ　あ。あ。……あ、あ。あ、い、う、え、お。あいうえお。あ、あ。……こんにちは。こ、ん、に、ち、は。こんにちは。

わかめがしゃべる練習をしていると、すごく挙動不審なケンタロウがやって来る。何度も舞台上に出たり、はけてしまったりする。携帯電話を見たり、立ち上がってまた戻ったり。わかめは横目でそれを見る。

わかめ　……あ！……あの。

ケンタロウ　（行ったり来たり）

わかめ　…あの、ケンタロウさん。

ケンタロウ　えっ。

わかめ　あっ。

ケンタロウ　えっ。

わかめ　あ……私です。

ケンタロウ　えっ、と。わかめさん？

わかめ　こんにちは……。

ケンタロウ　こんにちは！すみません全然気が付かなくて。

わかめ　本当に……ごめんなさい。私、こんな……。写真と全然違くて。全然違っているかももう全然別人で。別人って言っても似てるとかそういうニュアンスですらなくて……。

ケンタロウ ……はい。確かに、写真とは全然、似てないかも、です。

わかめ ですよね…もうシルエツトが、シルエツトが違うもん。あの、本当にすみませんでした。今日はケンタロウさんに謝りたくって。ここにきていいのかすら悩んでたんですけど、あんなにやりとりして…。毎日。

ケンタロウ はい。あ、おにぎり。

わかめ ……え？

ケンタロウ 作ってきたんですよ！おにぎり。わかめさんの真似して。鮭と、おかかと、これは…梅かな。

わかめ ……はい。

ケンタロウ 食べます？（差し出す）

わかめ ……いただき、ます。

ケンタロウ それ、梅です。

わかめ はい。好きです。

ケンタロウ わ、やっぱりほんとにわかめさんだ。

わかめ信じられないですね。

ケンタロウ いやいや！そういう意味じゃなくって！

わかめ 私、インターネットで出会い系、みたいな使いの初めてで。こんなだから、私の写真をアップロードしても絶対誰も話しかけてくれないだろうなって思ってた…。

ケンタロウ 僕も使ったことなかったですよ。出会い系。

わかめ ケンタロウさんは、本当に、そのままだ。

ケンタロウ あれ、わかめさんのプロフィール画像になったあの人ってどなたなんですか。お友達？

女が舞台上に現れ、キャリーケースを引いて二人の側を横切る。

わかめ あ。彼女です。

ケンタロウ えっ！？

女、ふたりが座るベンチから離れた場所にビニルシートを敷いて座る。

ケンタロウ 知り合いです、か。

わかめ いえ、全く。知らない人です。

ケンタロウ ええっ。…大丈夫なんですか？

わかめ 全く大丈夫ではありません。なりすましは、犯罪です。本当に、ごめんなさい。

ケンタロウ 僕は大丈夫ですけど…。

わかめ ……あ。

女、パイプを吹いて、シャボン玉をたくさんつくる。あたりがふわふわとシャボン玉に包まれる。

ケンタロウ　きれいですね。

わかめ　彼女、綺麗ですよ。

ケンタロウ　えっ。

わかめ　私、羨ましくって。あんな風だったら、きっと寂しくなかったのかなとか、思っ
て……それでこんな真似してしまった。私、こんなだから。ずっとひとりで。

ケンタロウ　こんなってどんなですか。

わかめ　見た目が。

ケンタロウ　わかめさん、綺麗です。とっても。

わかめ　いいんです、そういうの。

ケンタロウ　……さっきのきれいですねっていうのも、彼女のことを言ったんじゃないんです。シャボン玉がきれいで。もちろん彼女はきれいな女性ですが。……伝えるのって難しいな。その、今、こうしてシャボン玉に包まれてるわかめさん、とっても綺麗です！

わかめ　……。

ケンタロウ　なりすましは、まあ、よくないと思います。……でも、わかめさんにこうして出会ってよかった。僕はわかめさんと会って、今こうしておにぎりを一緒に食べていて、楽しい。

わかめ　……ケンタロウさん、許しちゃだめです。わたし

ケンタロウ　それに僕も嘘ついてるし！

わかめ　えっ。

ケンタロウ　オリンピック選手じゃないです。

わかめ　あ、そうなん……だ。えっ。そうなんですか。

ケンタロウ　はい！　オリンピック選手が頑張ってるの見て、ガンバレっていうの、嫌で！　じゃ、俺も頑張って走ってみようと思ってただ走っているだけです。本当は、就職活動中の無職です！

わかめ　うそ。……良かった。

ケンタロウ　良かった？

わかめ　完全に信じてました！　信じ込んでました！　騙されました！
ケンタロウ　お互い様です。わかめさんから会いまして言うって言われた時、僕ずっとどうしようって思っていました。まさかこういう状況の中で会えると思ってなかったから……ジョークのつもりで言ってて。もちろん、無職ですって言いたくなかった言い訳でもあるんですけど。

わかめ　私の方がよっぽどひどい嘘ですから。

ケンタロウ どうするんですか。

わかめ どうするって？

ケンタロウ 写真、とか。

わかめ 消します！というか、こんなこともうやめなきやと思って。

ケンタロウ そっか。よかった。

わかめ アプリも消します。ケンタロウさんにはこうして出会って、謝れたし。私には、使いこなせないし。

ケンタロウ わかめさんのコンプレックスは。

わかめ え？ ……それは、まあ。どうしようもないし。

ケンタロウ そっか。

わかめ 見た目はもうどうしようもないじゃないですか。うまれて持ってきたものだし。

ケンタロウ それはまあ、そうですね。

わかめ だから色々諦めて、私は元通りで。出会いとか求めちゃいけなかったんです。

ケンタロウ ……友達になりませんか。

わかめ え。

ケンタロウ 改めて。友達になりませんか。僕と。

わかめ なんて、ですか。

ケンタロウ 一緒に走りましょう！

わかめ ちょっと、何言ってるんですか。やだなあ、もう。

ケンタロウ 本気です！僕、わかめさんのこともっとよく知りたい。わかめさんと話すのが楽しいし、実際に会ってもそれは変わらなかったです。

わかめ 私、ケンタロウさんに嘘ついていたんですよ。ケンタロウさんは、あの人の写真を見て、私に話しかけてくださったわけで。あの人と恋愛がしたくて話していた……んだと思います。あの人と友達になってきたらいいじゃないですか！

わかめ、女を指さす。女がわかめたちをちらっと見る。

見られてふたり、ごまかしたりする。

ケンタロウ あの人の顔を好きになったわけじゃありません！わかめさんとおにぎりの話をするのが楽しかったんです。毎日、メッセージをできる人がいるだけで僕にとっては心の支えなんです。もうアプリを消しちゃうんだったら、話せなくなる。

わかめ それは、今の状況がこうだから、ドラマチックに感じちゃってるだけですって。ケンタロウさんは明るくて社交的だし、きっと私なんか友達にしくなくても他の人と出会えますから。

ケンタロウ わかめさん、友達いないでしょう。

わかめ ひどい！いますよ！……何人かは。

ケンタロウ いいでしょ。友達になってくださいよ。何かの縁ということで。

わかめ ……まあ。考えます。

ケンタロウ やった！　じゃあ、これ、俺の連絡先。

わかめ　へんなの。

ケンタロウ　へんな出会い方でもいいじゃないですか。

わかめ　写真と全然違う女が来て、そんなに嬉しそうなおかしいですよ。

ケンタロウ　確かに。

わかめ　じゃ、また。

ケンタロウ　絶対に連絡下さいね！

ケンタロウ、走っていつてしまう。わかめ、少し悩んで

わかめ　ねえ！ケンタロウさん！

ケンタロウ　はい？

わかめ　なんで友達になりたいって言うてくれるの！

ケンタロウ　おにぎりおいしそうに食べるから！

わかめ　はい？

ケンタロウ　会ってみたら、本当におにぎりおいしそうに食べるからですー！それに、わかめさんはこんだからって言ったけど、こんなって僕は全く思いませんでしたより！

ケンタロウ、走っていつてしまう。

ACT4

わかめ、取り残される。ケンタロウからもらったおにぎりを食べる。もぐもぐ。
ひとしきり食べて、溜息をつく。

わかめ とか何とか言って、絶対にもう会うことはないだろうと思っていました。どうせ私から連絡しても、返事が返ってこないかもしれないし。ケンタロウさんは、こういう状況下で、初めてインターネットを使って出会ったことに舞い上がっているだけ。……だと思っていたんですが。

ケンタロウ走ってくる。公園をランニングしている。

ケンタロウ （手を振りながら）わかめさ〜ん！なんでまだ連絡してくれないんですか〜！

わかめ 私がこの公園に散歩に来るたびに、なぜかケンタロウさんは走っていて、話しかけてくるようになってしまいました。ケンタロウさん、どうしてここに〜？

ケンタロウ 僕のランニングコース、この公園なんです〜！東京にお住まいってことでしたけど、思ったより近所でしたね〜！

わかめ という調子で。だから私たちは、気軽に、毎日ここで会うことができます。

ケンタロウ ねえ、わかめさん。

わかめ はい。

ケンタロウ あその彼女に、話しかけないんですか。

わかめ えっ、どうして。

ケンタロウ ほら、勝手に出会い系アプリで写真使ってたわけだし。

わかめ 謝れてっことですか。

ケンタロウ まあ、そういうことかな。

わかめ ……嫌ですよ。

ケンタロウ えーっ！最低じゃん。

わかめ ……。

ケンタロウ そうだな…僕が話しかけようかなあ。

わかめ やめてくださいよ！ 余計に話がこじれる。

ケンタロウ あの人、美人さんだしなあ。俺が話しかけたらめっちゃ怪しまれそう。

わかめ ケンタロウさん、本当にやりそうだから怖いです。

ケンタロウ 結構本気ですよ。わかめさんに話しかけた時も勢いでしたし。

わかめ 確かに、あの人に話しかけたつもりなわけですしね。こうやって現実の世界で話しかけるのも一緒か。……というわけにもいかない気もする。

ケンタロウ よし、行ってみよ！

わかめ えっ、ちょっと！

二人が話しているうちに女、ビニールシートをたたんでキャリーバッグにしまう。文庫本を一冊、置きっぱなしにしてしまうが、気づかず立ち上がって帰ろうとする。ケンタロウがそれに駆け寄った。

ケンタロウ ……こんにちは。

女 え。

ケンタロウ あ。……すみません。

女 いえ……。

ケンタロウ いきなり、びっくりしましたよね。

女 ……。

ケンタロウ その、俺、ほんとに、そういう変な奴じゃなくって。すみませんこんな他人がいきなりびつくりドッキリ話しかけて。

女 ナンパですか。

ケンタロウ え、いや、そういうのではなく！

女 ごめんなさい。

女、足早に去ってしまう。ケンタロウ、その場で崩れ落ちる。

わかめ 撃沈してるじゃないですか…。

ケンタロウ 全然、思った感じと違った…。

わかめ 人を見かけで判断してはいけません。

ケンタロウ それわかめさんが言う？

わかめ ごめんなさい。……ちよつと面白かった。

ケンタロウ ひどい！俺ちよつと自信なくなっちゃった…。

わかめ まあそりや、そうだって感じだけど。

ケンタロウ わかめさんまでっ！わかめさんは俺が話しかけても話してくれたもん！

わかめ あれはネットだったから。文字で話しかけると、現実とは違いますよ。

ケンタロウ みんなひどいっ！

ケンタロウ、情けなく走り去ってしまう。わかめ、女が忘れていった文庫本に気付き、拾い上げる。ケンタロウが走っていったあと、女、戻ってくる。きよろきよろ、探しながら。

わかめ 本。これ、忘れ物…？

女 あっ。

わかめ ……あ。

女 それ、そこに落ちてましたか。

わかめ ええ……ここに。

女 それ、私の。ありがとうございます。

わかめ いえ。よかった、です。

わかめ、女に本を渡してやる。間。

女 さっきこの辺に変な人いませんでした？

わかめ え。

女 ジャージの。こちらへん走ってる人なんですよ、いつも。さっき話しかけられて。よかった、その人が拾ったんじゃないかと。

わかめ ……ええ。

女 なんか最近、私のことチラチラ見てる気がして……気持ち悪くなって思ってたんですよ。気を付けたほうがいいですよ。

ケンタロウが舞台上を走って通り過ぎる。

わかめ ありがとうございます。

女 すみません、初対面なのにベラベラ。

わかめ いえ。全然。

女 ね、お姉さんもいつもこの公園来てるでしょう。

わかめ えっ。

女 私も毎日この公園来て。ホントは歩いちゃダメなんですけどね。お姉さん、あのベンチに座っていつもおにぎり食べてるでしょう。美味しそうに食べるから私、覚えちゃって。さっきの人のこと言えないな。

わかめ そう、なんです。えっ、本当？

女 はい。ごめんなさい！急にこんなこと言って。

わかめ いいえ。全然、謝らないでください。本当に。

女 話しかけようかなって、何度も思ってたんですよ。

わかめ どうして

女 私、友達いなくて。一人暮らしですと家に一人きりだと気が詰まっちゃって。

わかめ え、嘘。

女 嘘って何ですかあ。

わかめ だって……あなた、すごく綺麗だし。こうやって話しかけてくれて、とても……感

じがいいし、そういう風にはとても見えなくて。

女 あはは。ありがとうございます。私、最近この街に引っ越してきたんです。色々あって前の仕事辞めて。前の街にいたらその状態の自分をどこまでも引きずってしまいそうだなあと思って、どうしても引っ越したかったんです。まあ、引っ越してきて1週間くらいで世界はこんな風になっちゃいましたけど。

わかめ そう…なんですか。

女 だから今、友達いないんです。……ごめんなさい！暗い話、おしまい！

わかめ ……あの、おにぎり。食べますか。

女 わー。いいんですか！

わかめ 人が握ったやつ無理じゃなかったら…あ、でもまずいか。

女 とっても美味しそうです。

わかめ そういう意味じゃなくって、こういう時期に人の手で作ったもの…。

女 消毒してるでしょう。ちゃんと。

わかめ はい。

女 こんなに綺麗なんかもん。いただきます。

わかめ あ、それ梅。

女 梅、大好きなんです。何の映画だったかなあ……母が好きな映画で『梅はその日の難逃れ』っていうセリフがあって、影響受けて毎日うちでは梅が出るんです。

わかめ へえ。素敵。

女 難逃れって、いいですよ。それにほら、梅って毒を消してくれるっていうし。

わかめ 確かに。

女 今日、いいことありました。あなたと、こうしてお話できるなんて思わなかった。

わかめ 私も、です。

女 ずっとね、家にいると本当にだめですね。話す人がいないと。

わかめ はい。……あの、あの、私の友達なんです。

女 えっ。あの？

ケンタロウを指さすわかめ。ケンタロウはふたりのそばをのろろ走って通り過ぎる。

わかめ 友達っていうか……なんか、知り合い。

女 ごめんなさい！さっき、気持ち悪いとか言っって！

わかめ あ、全然。さっきのは彼が悪いので。

女 ナンパかと思ったもん、なんかにやにやしてたし。

わかめ ですよ。

女 私、男の人が苦手。

わかめ 私も、苦手というか……慣れてなくて。

女 あの人とは別なんですか。

わかめ え。

女 特別なひと？

わかめ ……ある意味？

女 （笑う）なにそれ。

わかめ 本当に、変な関係です。……私たち、出会い系アプリで知り合って。

女 そうなの！

わかめ ……はい。

女 時代ですよ。

わかめ ……でしょうか。

女 はい。私もやってるし。

わかめ え。

女 私、ずっと前からやってて。今もやってますよ。ほら。

わかめ そ、そうなんですねえ…。

女 ね、このアプリって、相手との距離とか表示されるんです。で、色々近所でやってる人探してみたら、私とめちやくちや似てる顔の人が表示されて！びっくりしたんですよ！

わかめ ……。

女 会ってみたいなあ。ドッペルゲンガーかも！それって会ったら死んじやうんだっけ。

わかめ ……死んじやいたい。

女 やっぱ死んじやうやつですよ。

わかめ すみません、本当にすみません。

女 え？

わかめ それ、私です。私、というかあなたというか。

女 ……え？

わかめ 私、なりすまし、して、アプリやって。あなたが見てるそれ、私です。私、というかあなたの写真です。

女 嘘。

わかめ 本当です。

女 ……えーっ……これ盗撮！？盗撮してなりすまし！？

わかめ ……はい。

女 やだ、そんな。それで、今コレ？嘘。……そんなことある？

わかめ はい。

女 私、そんなに可愛かった？

わかめ え？

女 なりすましたい、って思えるほど可愛いつて思った？

わかめ ……ええ。はい。本当に、ごめんなさい。

女 よかったー！

わかめ ……はい？

女 あなたが撮った写真？これ。これ見てね、可愛い人だなあって思ったのよ。なんだかすぐく遠くから撮ってるみたいだったから、細かいところはよく見えないけど。きれいな人だなんて思ってたの私。いい写真。可愛くしてる甲斐があったわ！そっか、よかったなあ。

わかめ ……。

女 盗撮はもちろん、だめですよ！なりすましも！変なことしてない？

わかめ ……はい。あの人と出会ったくらいです。

女 じゃあ、大丈夫！あなたとも、こうしてお話しできたし。

わかめ え。そんな、警察とか、ちゃんと訴えたりとか…。

女 やだやだ。そんなのめんどくさい。……そっかあ、私可愛いかな。よかった。

わかめ そんな…。許したらだめです。本当に、お詫びさせてください。

女 ー……じゃあ。

女、携帯電話を取り出す。正面から、わかめの顔を撮影する。

女 ……笑って？

わかめ ……？

女 かわいい。（写真を撮る）

わかめ えっ。

女 私が、あなたの写真を使って出会い系アプリをやります。

わかめ どういうこと？

女 嫌？

わかめ 嫌……とは言えない、です。

女 ヘンなことほしくないからさ！ね、いいいでしょ。交換こしよ。

わかめ ……はい。

女 変だね。すっごく！

わかめ はい。変。すごく。変。

女 おっかしー。あ、これ、してもいい？（シャボン玉を取り出す）

わかめ シャボン玉。いつも吹いてる。

女 私ね、これたばこの代わりしてるの。禁煙中で。

わかめ へえ……それも、変かも。でも素敵。

女 変でしょ。私変なの好きよ。

わかめ はい。

女 ほら、たばこ吸うより喜ばれるじゃない。

わかめ 明るい気分になります。シャボン玉見ていると。

女、パイプをふく。ふたり、シヤボン玉に包まれる。ケンタロウ、それを見てふたりに近付いてくる。

ケンタロウ え、これは、どういう……。

わかめ あ、ケンタロウさん。

女 こんにちは。さっきはごめんなさい。勘違いして。

ケンタロウ あ……え？どういうこと。

わかめ あの、全部、話しました。

ケンタロウ そうなの！？そうなんだ！！すご。え、どうやって。どうして。

女 ドラマチックに出会ったんです。（携帯電話を触りながら）

わかめ そう、そんな感じ。

ケンタロウ えー。なにそれ。気になるなあ。

わかめの携帯電話がメッセージを受信する。

「あなたの名前はなんていうの？」

わかめ ……名前？

女 うん。

ケンタロウ えっ。なに、どういう流れ？

わかめⅡ愛 ……愛です。

女Ⅱめぐみ 愛ちゃん。私は、めぐみです。よろしく。

わかめ めぐみさん。よろしく。

ケンタロウ ……ケンタロウです。

わかめ ケンタロウさん。よろしく。

めぐみ よろしく。

ケンタロウ うわー。なんか変な感じ！

愛 ですね。

めぐみ ねえ、愛ちゃんはなんでもすましてたの？あと、ケンタロウさんはなりすましてた愛ちゃんとなんでこんな仲良くなれたの。

愛 ……それは、はい。私、こんなだから。友達もあんまりなくて、その、恋愛とかも一生できないかと思って。かわいい人の写真使えば、メッセージくらいはできるかな、とか思って…それで…。

めぐみ そっか。

愛 ごめんなさい。

ケンタロウ 僕は、わかめさんと毎日メッセージするのが楽しくて、会ってもそれは変わら

なかったから！写真のことは、ほんと気にならなかったというか、いや、正直一目ぼれではあったんですけど。でも残念な気持ちとかにはならなくて。むしろ

めぐみ そう。そんなことより、何がそんなにだめかね……愛ちゃん、かわいい。

愛 いやいやいや、私は本当に、そういうお世辞みたいな無理というか、逆に地獄というか。

ケンタロウ いつもこんな感じなんです。わかめ……いや、愛さん。

めぐみ ふーん。そのままで素敵なのにね。おにぎり食べてるところがかわいい。いつもね、こんな顔して食べてるのよ。（真似して）こんな。

ケンタロウ ホントホント、そうですね。愛さんがおにぎり食べてるところを見ると幸せな気分になるもん。

愛 やめてくださいよ……デブってことじゃないですか。私、暗いしデブだし、いいところないから。本当に。

めぐみ わかった！じゃあ、走ろう。

愛 え？

ケンタロウ 僕もそれ何回も愛さんに言ってるんですよ。

めぐみ 愛ちゃん、走ろう。痩せよう。いや、別に痩せなくてもいいけど……。走って、お腹減らして、おにぎり食べよう。

愛 ……。

めぐみ 私、愛ちゃんがおにぎり食べてる姿も、走ってる姿も見たい！いや、今日出会った、さつき出会った私たちだけで。誰様ってかんじだけど、でもどっちもね、素敵だと思うのよ。これなりすましのお詫び、ってことにしよう。

ケンタロウ めぐみさん、めちやくちゃ。

めぐみ ね、いいでしょ。ケンタロウさんが、愛ちゃんと一緒に走るの担当。暗い、の方は私が……私が一緒にいるから。シャボン玉、たくさん吹くよ。明るい気分させる。

ケンタロウ 俺はずっと愛さんと走りたいと思ってたし、そうになったら、嬉しい。

愛 ……ふたりとも、優すぎる。

めぐみ この街で、やっと友達ができたんだもん。

愛 ……私、走れるかなあ。

めぐみ 走るの、好き？

愛 どっちかっていうと、嫌い。

ケンタロウ 一緒なら？

愛 一緒なら……好き、かなあ……。わからない。

めぐみ そっかあ。

暗転

ACT5

愛、舞台上でジャージにゆっくりと着替えた。愛が高校の時に着ていたジャージ。緑色のジャージは恐ろしく似合っていない。

愛 ……。

めぐみ 愛ちゃん、かわいい。

愛 かわいいかなあ。

めぐみ 似合っていない。

愛 うん。似合っていないねえ。

めぐみ それが、かわいい。

愛 なんでも褒めてくれるじゃん。

めぐみ なんでも褒めるよ。好きだから。

愛 最高じゃん。

ケンタロウ、走ってきて。

ケンタロウ 愛さん！ジャージだ！

愛 うん。（くるつとまわって）どう？

ケンタロウ 面白い。

めぐみ 本当にケンタロウってだめだわ。

愛 うん。全然だめ。

ケンタロウ ごめんなさい！ごめんって！

愛 ……今日から、これが似合うようになるまで、二人とも、お付き合いよろしくお願
いします。

めぐみ 何、選手宣誓？

愛 じゃあ、うん。宣誓！私は、私を支え、励ましてくれた二人への感謝の気持ちを胸
に、全力で走ることを誓います！

ケンタロウ、めぐみ、愛に拍手する。

ケンタロウ じゃあ、ストレッチからしましょう。久しぶりに走る人は全力で走っちゃだめ
だからね？

愛 気持ちです、気持ち！

三人、入念なストレッチをする。なぜか無言になってしまった。

ケンタロウ よし。そろそろよろしいでしょうか。

愛 はい。

ケンタロウ では。ゆっくり、自分のペースで。

ケンタロウ、トラックを走り始める。それに続いてわかめ、走る。ちよつと走っただけで息が続かない。その後ろを、前を、ケンタロウはペースを乱さずに走る。

めぐみ がんばれー。

愛 ……うん！

ケンタロウ がんばれー。

愛 （息切れながら）がんばるー！

ケンタロウ がんばろー！愛さーん！

愛 がんばるー！

愛は笑っている。笑って走る。

めぐみ、ベンチに座った。めぐみ、パイプを吹く。

めぐみ 「何もかも、平和みたいな昼だった。」

「通り過ぎる人々は、みんな無意味に楽しそう」

「ランニングをする愛とケンタロウ。」

「青々とした木々、それを撮る老人」

「私のこの、シャボン玉すら」

「みんな楽しそうで。とても」

「いいなあ。」

シャボン玉がたくさん、たくさん漂う。ゴールテープをちぎるように、シャボン玉を全身に浴びながらふたりは走る。めぐみはいつまでも愛のためにシャボン玉をつくった。

オシマイ。